

泉のほとり

・三位一体後第七主日

今月の詩編「第二八編」

嘆き祈るわたしの声を聞いてください。

至聖所に向かって手を上げ

あなたに救いを求めて叫びます。



キリストに出会うための人生

キリストと弟子たちがベトサイダに着いた時、ある人たちが一人の盲人を連れてきて、触れていただきたいと願いました。主イエスはその盲人の手を取って、村の外に連れ出し、彼のその目に唾をつけ、両手をその人の上に置いて「何か見えるか」と言われました。すると盲人は「人が見えます。木のように見えますが、歩いているのが分かります」と答えたのです。そこでもう一度両手をその目に当てられると、何もかもはっきり見えるようになりました。ところが主イエスはその人に「この村に入ってはならない」と言つて、その人を家に帰されたのです。

キリストは人の病を癒された後、「誰にも言うな」と言われたことが何度もあります。すぐ前の7章において耳が聞こえず舌の回らない人を癒した時にも、その出来事を見た人たちにそう言われました。しかし人々はそのことばに従いません。「この方のなさったことはすべてすばらしい。耳を聞こえるようにし、口の利けない人を話せるようにする」と言い広めたのです。一見、「すばらしい」と言っているから、それはよいことではないかと思ふかも知れません。しかし主イエスが「誰にも言うな」と言われる時は、言うまでもなく「言つてほしくない」ということです。まず、キリストが病人を癒されるのは、人々がご自身を「すばらしい」と言わせるために、言い広めさせるためではないことを覚えておきたいと思ひます。唯々病人を憐れに思ひ、直されたのです。何より、奇跡を見た人々は「すばらしい」と言い広めましたが、自分たちに語られている最も聞くべき「悔い改め

の福音」には耳を傾けませんでした。特に盲人の目を開けてくださった「ベトサイダ」というところは、他のどこよりも主イエスが数多くの奇跡を行われた町です。しかしマタイの福音書では「コラジン、ベトサイダ、お前は不幸だ。お前たちのところで行われた奇跡がティルスやシドンで行われていれば、これらの町はとうの昔に粗布をまとい、灰をかぶつて悔い改めたに違いない」と言われたところです。

キリストを見た者は多く、キリストについての「すばらしい」という噂を聞いた者も多くいましたが、福音に心砕かれ、貧しい心をもつてキリストに近づき、キリストに出会う者はほとんどいなかったようです。

私たちの限られた生涯はイエス・キリストに出会うために与えられています。キリストを通して、私たちの造り主であられる天の父、そのお方へと立ち返るためです。一人の盲人がイエスさまに出会って、触れていただいて、目が見えるようになりました。そして村ではなく家に帰されたのです。それと同じく、キリストに出会って、その方に触れていただき、更に触れていただいて、私たちの心の目がはっきりと見えるようになる。そうして帰るべき道をはっきり見て帰る、人生はそのために与えられているのです。

主イエスは「村に入るな」と言われました。村とはキリストを見た者は多く、キリストについての華やかな噂や、騒ぎがあるものの、キリストに出会い、罪から救われ、安らぎを待たないところでした。私たちのキリストについての知識が、文字、噂に止まるものであつてはなりません。このお方に出会い、知ることが重要なのです。

主が与えてくださった冬は

主よ

「冬来れば養蚕からじ」という

言葉があります。

辛い寒い冬を耐える人々への

励ましの言葉だと思えます。

わたしは七〇年生きて、

七〇回の冬を、乗り越えて参りました。

北海道では、

四季の内が一番長いのは冬なのです。

春、夏、秋は、冬にくらべて

ずっと短いのです。

主よ、

主はもしかしたら、

北国の人々にとつては、

冬が一番すばらしい季節だと

お考えになられて

冬を長くされたのではないのでしょうか。

三年もの養蚕を生活をしたわたしには

病気が長い冬でした。

でもこの頃は、

愛なる主が与えてくださったあの冬は、

大きな恵みだと、

思えるようになりました。

主なる神よ、

ありがとうございます。

平野克己 「祈りのともしび」より

三浦綾子の祈り

今日のお知らせ

○第一礼拝後、教会学校と並行してロビーでのコーヒーサービスがあります。回舎二階のリズム室ではどのような会が開かれ、礼拝で受けた恵みの分かち合いをします。

○第二礼拝後、ホールで讃美と報告の会をします。お昼はお弁当です。

○第一礼拝で教会学校の終業式が行われます。

○午後二時から、カナルームで役員会を行います。

○先週、伏差しにバザー券を配布いたしました。各家庭に一〇枚です。簡算は九月末までに、事務所でお願いします。

○七月二九日に行われる教会研修会の申込を、今日中に、各部役員もしくは事務所までお出しください。

○一七日（火）午後三時から日本キリスト合同教会委員会が品川教会で行われます。委員はご出席ください。

○古村牧師は二〇日（金）お昼に行われる明治学院横浜校舎の礼拝で奉仕をします。

フランクフルトの日常生活

当地に来て八月でまもなく二年が経ちます。不便に感じていたことも慣れてきて、穏やかな日常です。

娘は四月から日本人小学校に通っているため、まるで日本に居たときのような環境で過ごしています。とはいえ、入学してから既に学年で五人が帰国して、二人が転校してくるような別れと出会いの機会が頻繁に訪れます。また給食がないため、お弁当と水筒持参。四年生までは親の送迎が必要のため、朝はゆっくり歩いて二十分、お迎えは日差しが強く暑いので車で五分。完全下校の一六時までには教室で宿題をしたりお友だちとお絵描き、校庭で遊ぶこともできます。教室や校庭で過ごす時間は親が見守ることになっています。また放課後は友人宅へ行ったりうちへ招いたり、冬以外は公園遊びも頻繁です。私は午前中に週二回ドイツ語のレッスンを九十分受け、週一回二時間聖書を学び祈りを合わせ、時折テニスを楽しんでいます。

ドイツでは掃除ブラシなどの道具が充実しており、掃除の習慣も変わりました。日曜午後は礼拝、週末は庭の芝生の手入れをしたり、ソフトボールの練習や大会に参加、夫はゴルフも楽しんでます。夏の芝生の手入れは、三十分以上手動のスプリンクラーをセットして水撒きをほぼ毎日夕方に行います。ささやかな一週間ですが、毎日全力で歩んでいます。

自らの至らなさに愕然とすることもありますが、主が必要なすべてのものを満たしてくださっていることに気づかされます。そして品川教会の豊かな恵みをこの地で改めて感じています。

山城芳子

聖書の会へどうぞ

7月18日(水)

●朝の聖書の会(10時)

「真の敵はどこに」

マタイ16章1〜12節

古村和雄牧師

●聖書の夕べ(19時)

「まっすぐに立ちなさい」

使徒14章8〜12節

黄允湜副牧師

ミニコンサート

9月13日(木) 12時30分より

ピアノ教室 鷹谷 幸

ベルガマスク組曲

C. A. ドビュッシー

次週礼拝

●第1礼拝(午前9時30分)

讃美歌 讃21 205番 小さい羊が

説教 「任える者になりなさい」

聖書 マルコ9章33〜41節

説教者 黄允湜 副牧師

●第2礼拝(午前11時10分)

讃美歌 15番 225番

詩篇 第28編

説教 「福音を恥としない」

聖書 ローマ1章16〜17節

説教者 古村和雄牧師



第一礼拝 (午前9時30分)

讃美歌 讃21 205番

小さい羊が

説教 「信仰のないわたしを」

聖書 マルコ9章14節～29節(新約P78)

司式 山名隆史兄

説教者・聖餐司式 吉村和雄 牧師

前奏曲「前奏曲ニ長調」A.ドヴォルザーク

○讃美歌21 205番

1. 今日ひかりが つくられた日よ
やみの中にも 「ひかりかがやけ」
2. 今日ひせいなる あんそくの日よ
つかれた心 新たにされる
3. 今日へいわが みらあふれる日
あそいさわぐ 波もしずまる
4. 今日み神に とものにいのる日
心をたかく み前に上げよう
5. 今日主イエスの よみがえりの日
われらを生かす 愛をたたえよ アーメン

○歌とピアノによる讃美

「いつくしみ深き」讃美歌312番

○小さい羊が

1. 小さい羊が家をはなれ
ある日とおくへあそびにいき
花さく野はらのおもしろさ
かえる道さえ忘れまして
2. けれどもやがて夜になると
あたりはくらくさびしくなり
うちがこいしく羊はいま
声もかなしくないでいます
3. なさけの深い羊飼いは
この子羊のあとをたずね
遠くの山やま谷そこまで
まいごの羊をさがしました
4. とうとうやさしい羊飼いは
まいごの羊を見つけました
だかれて帰る この羊は
喜ばしさにおどりました アーメン

聖餐曲「主の歌を」編曲:J.デビス

後奏曲「スケッチ」R.シューマン

第二礼拝 (午前11時10分)

讃美歌 3番 239番

詩篇 第28編(旧約P858)

説教 「罪人を招くため」

聖書 マタイ9章9節～17節(新約P15)

司式 山名隆史兄 聖餐司式 吉村和雄 牧師

説教者 黄允湜 副牧師

前奏曲「協奏曲」J. S. バッハ

○讃美歌 3番

○歌とピアノによる讃美

「いつくしみ深き」讃美歌312番

○聖歌隊による讃美

「バビロンの流れに」ジョージ・グ・バリストナ

流れ行くバビロンのほとりに

我ら坐し 涙流して泣けり

はるか思いをシオンにはせ

琴を柳にかけ

我ら涙ながし泣けり

○讃美歌 239番

聖餐曲「主の祈り」J. S. バッハ

後奏曲「スケッチ」R.シューマン

× 礼拝には、聖書、讃美歌、礼拝のしおりを毎週お持ちください。